

ガーデンを考える会

支援第2弾は

気仙沼の小学校13校



仮設住民と児童による植え込みの様子

NPO法人ガーデンを考える会（水野隆会長）は、東日本大震災地域の小学校に対する支援活動として、6月の岩手県釜石市の小学校9校に引き続き、2回目の直接支援活動を10月4～5日に、会員有志12名で行った。

今回の支援対象先は、宮城県気仙沼市の小学校13校で、その内の8校は支援物資を届け、5校は授業活動の一環として会員と共に花苗の植え込みを行った。

支援内容としては、ピオラを主体とした花苗を約1500ポット、

チューリップの球根を約1500球、それを植え込むコンテナ・培用土・肥料・植え込み用のスコップや手袋等を、会員メンバーおよび園芸業界被災地支援の会（中島吉之代表）から募り、寒さが厳しい東北の冬から早春まで、コンテナで育った花を楽しんでもらうというもの。

当日は2班に分かれ、小原木小学校・鹿折小学校・九条小学校・中井小学校・唐桑小学校を訪れ、1年生から6年生まで多くの児童とともに、会員が植え込みの指導をしながら、1時間程度をかけて行った。また、その内の小原木小学校では、隣接する仮設住宅30戸の住民との触れ合いも含め、児童と仮設の皆さんが大勢で和気あいあいと植え込みを楽しんだ。

気仙沼市では、港の周辺で甚大な被害を受け、半年以上経った今でも、多くの児童に影響を与えている。植え込みが上手だった1年生の児童に、会員が声をかけたところ、「家でいつも花を植えてたから」との返事があり、それに続いて「でも流されちゃった」との言葉には、参加した会員も言葉がなかったとのこと。

翌春からも継続支援

被災地域はこれから冬に向かうため、ガーデンを考える会の被災地小学校に対する園芸支援活動は一旦休止し、翌年の春から再び活動を再開する。

水野会長は「半年以上も経って、人々の中には被災地への関心が多少薄くなっていく気配があるようだが、現地の状況はまだまだまだとも復興などといえたものではなく、長期的な視野に立った支援が必要」、また「ただ単に物資や資金の支援ではなく、ぜひ現地での直接支援活動に参加し、花と緑で人々の心を支援してほしい」と語っていた。

●支援活動協賛会員等

アップルウエア／キムラグリーン／さんこうえん／シモジマ／東和コーポレーション／豊明花き／中島商事／ハイポネックスジャパン／ハクサンインターナショナル／福島植物園／フラワーオークションジャパン／北越農事／緑のマーケット／緑花技研／園芸業界被災地支援の会